

教育・研究などへの取組状況（令和7年度）

総合工学システム学科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
助教	木村 祐太

項目	取組状況
教 育	<p><b>【担当科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究（5年）、基礎研究（4年）、応用専門概論（3年）、応用専門PBL1（3年）、知能情報実験実習1（3年）、情報2（2年）、論理回路1（2年）、3年知能情報コース 担任</li> </ul> <p><b>【担当科目の取組み状況/特筆すべき教育方法の実践例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に続き、授業の最初に前回の復習や課題の解説などを行い、継続的に学習したことを思い出させるようにした。（論理回路1）</li> <li>現代的な開発の重要要素として Docker や Kubernetes といった開発の基盤となる技術の学習を取り入れた（知能情報実験実習1）</li> </ul>
研 究	<p><b>【研究テーマ】</b>：OSS（オープンソースソフトウェア）と技術的負債</p> <p><b>【科研費および外部資金】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量子と古典の二刀流を目指す次世代 ICT 技術者育成プログラムの開発、科学研究費助成事業 基盤研究(C)、早川潔、<u>木村祐太</u>、榎倉浩志、金井友希美、松永博昭（2024.04-2029.03）</li> <li>人工知能の情報教育への応用、公益財団法人 高橋産業経済研究財団助成、新妻弘崇、中才恵太郎、<u>木村祐太</u>（2025.04-2026.03）</li> </ul> <p><b>【研究実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>桑原大昇、<u>木村祐太</u>、“Stack Overflow と GitHub Discussions における技術的負債の投稿の傾向と内容の違いの調査”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、pp.93-98、（2025.11）</li> <li>祐谷創、<u>木村祐太</u>、“GitHub Issues を通じた ChatGPT の開発者利用におけるプロンプトの特徴の調査”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、pp.99-104、（2025.11）</li> <li>中才恵太郎、<u>木村祐太</u>、新妻弘崇、“AI エージェントを用いたプログラミング課題の自動フィードバックシステム開発の試み”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、pp.141-146、（2025.11）</li> <li>池原大貴、<u>木村祐太</u>、“課題管理システムにおける技術的負債の返済とリファクタリングの関係の調査”、日本ソフトウェア科学会論文誌「コンピュータソフトウェア」、pp.54-67、（2026.01）（推薦論文）</li> <li>北野健一、久野章仁、岩本いづみ、東田卓、<u>木村祐太</u>、“大阪公立大学高専における応用専門 PBL1 初年度の取組”，日本高専学会（2025.09）</li> </ul>
社会貢献	<p><b>【査読】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報処理学会論文誌（2025.9-2025.12）</li> </ul>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況（令和6年度）

総合工学システム学科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
助教	木村 祐太

項目	取組状況
教 育	<p><b>【担当科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究（5年）、基礎研究（4年）、応用専門概論（3年）、応用専門PBL1（3年）、知能情報実験実習1（3年）、情報2（2年）、論理回路1（2年）</li> </ul> <p><b>【担当科目の取組み状況/特筆すべき教育方法の実践例】</b>                      授業の最初に前回の復習や課題の解説などを行い、継続的に学習したことを思い出させるようにした。また、資料のみでも学習できるように、講義内容だけでなく、考え方のヒントなど細かく記載した（知能情報実験実習1・論理回路1）</p>
研 究	<p><b>【研究テーマ】</b>：OSS（オープンソースソフトウェア）と技術的負債</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>依存関係を用いた技術的負債の自動検出</li> </ul> <p><b>【科研費申請状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究スタートアップ支援（不採択）</li> </ul> <p><b>【研究実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野口優輝、<u>木村祐太</u>、伊原彰紀、大平正雄、“自動生成されたパッチがコーディング規約違反に与える影響の分析”、ソフトウェア工学の基礎特集号、日本ソフトウェア科学会論文誌、(2024.11)</li> <li>池原大貴、<u>木村祐太</u>、“課題管理システムにおける技術的負債の返済とリファクタリングの関係の調査”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、pp.91-96、(2024.11)</li> <li>森壮平、<u>木村祐太</u>、“深層学習を用いた実装機能の時系列の予測”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、ポスター発表、(2024.11)</li> <li>山村慎太郎、大平雅雄、<u>木村祐太</u>、“高品質なコミットメッセージの自動生成に向けたデータ収集手法の構築”、ソフトウェア工学研究会、(2025.3)</li> </ul> <p><b>【受賞実績】</b>                      学生研究賞：山村慎太郎、大平雅雄、<u>木村祐太</u>、“高品質なコミットメッセージの自動生成に向けたデータ収集手法の構築”、ソフトウェア工学研究会、(2025.3)</p>
社会貢献	<p><b>【公開講座】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ネットワークサーバ構築講座：Linuxでサーバを設定しよう」、電子情報通信学会関西支部、(2024.8.20-8.21)</li> </ul> <p>校長表彰：6号</p>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況（令和5年度）

総合工学システム学科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
助教	木村 祐太

項目	取組状況
教 育	<p>和歌山大学大学院システム工学研究科博士後期課程 在籍のため、和歌山大学での経験を記載する。</p> <p><b>【担当科目】</b> (TA:ティーチング・アシスタント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オブジェクト指向プログラミング演習（学部 2年生）</li> </ul> <p><b>【担当科目の取組み状況/特筆すべき教育方法の実践例】</b>                      (TAとして取組んだ内容を記す)                      主に質疑応答、解説に取り組んだ。データフローなどを直感的に理解できない学生に対して、図や絵を描きながら説明した。</p>
研 究	<p><b>【研究テーマ】</b>: OSS（オープンソースソフトウェア）と技術的負債</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● OSS 開発者によって取り上げられる技術的負債の分析</li> </ul> <p><b>【科研費申請状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 博士後期課程在籍のため、申請なし</li> </ul> <p><b>【研究実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 田口舞奈、<u>木村祐太</u>、大平正雄、“技術的負債に関する課題票の単語分散表現を用いたテキスト分類”、ソフトウェアシンポジウム、pp.28-37、(2023.5)</li> <li>● 野口優輝、<u>木村祐太</u>、伊原彰紀、大平正雄、“自動生成されたパッチがコーディング規約違反に与える影響の分析”、ソフトウェア工学の基礎ワークショップ、pp.83-92、(2023.11)</li> </ul> <p><b>【受賞実績】</b>                      論文奨励賞：田口舞奈、<u>木村祐太</u>、大平正雄、“技術的負債に関する課題票の単語分散表現を用いたテキスト分類”、ソフトウェアシンポジウム、pp.28-37、(2023.5)</p>
社会貢献	<p><b>【公開講座】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「レジリエントクラウド共同講座」（クオリティソフト株式会社・和歌山大学）</li> </ul> <p>パネルディスカッションの登壇者として参加</p>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載